

8月2日(月曜日)  
ドル/円

## 今週末の米雇用統計が意識される

### 30日(金)の主な推移

ダウ平均株価

10465.94ドル  
(-1.22ドル)

米長期金利  
(10年債利回り)

2.9106%  
(-0.0706%)

NY原油先物

78.95ドル  
(+0.59ドル)

チャート: 30分足 30日(金)朝6時 ~ 31日(土)朝6時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、( )は前日比  
出所:外為どっとコム

- ① 米第2四半期国内総生産(GDP)が事前予想を下回るとの見方が根強いなか、日経平均株価が軟調に推移したことにより、市場ではリスクを回避する動きが強まると、ドル/円は軟調に推移した。
- ② 21時30分に発表された米第2四半期GDPは前期比年率で+2.4%と事前予想(+2.6%)を下回る結果となり、米経済の成長スピードの減速感が改めて浮き彫りとなった。これによりドル/円は年初来安値を更新し、一時2009年11月30日以来となる85.95円を記録した。しかしその後は一段と売り込む勢いは見られず、86円前半でのみ合いが続いた。
- ③ 22時45分に発表された7月シカゴ購買部協会景気指数は62.3と市場予想(56.0)を上回り、またその10分後に発表された7月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値も67.8とこちらも市場予想(67.0)を上回る結果となった。これらを受け一時100ドル以上下げている米ダウ平均株価が大きく反発、一時前日比でプラスとなる場面が見られると同時に、ドル/円は86.72円まで反発する場面が見られた。

## 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

## 下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

## 本日の見通し

本日の予想レンジ: 85.80— 87.10円

本日は米国にて、7月ISM製造業景況指数の発表が予定されている。今週末には米7月雇用統計の発表が予定されており、また先週末に発表された7月のシカゴ購買部協会景気指数やミシガン大消費者信頼感指数・確報値など事前予想を上回る経済指標が出た中において、7月の米国の経済や雇用の状況を占う上で市場の関心が集まりそうである。仮にISM製造業が事前予想を上回る場合、市場では米経済について、第2四半期は減速したが7月には盛り返していると判断する可能性が高まり、ドル/円は上値を試しやすくなると見られる。一方で米経済の減速懸念に注目が集まる場合には、ドル/円は上値の重い展開が見込まれよう。

そのほか、バーナンキ連邦準備制度理事会(FRB)議長の講演が予定されている。もし仮に米国の経済や金融に関する発言が出た場合、市場では材料視される可能性があるため注意したい。(川畑)

## 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
8/2(月)	23:00	◎	(米) 7月ISM製造業景況指数	56.2	54.0
	23:00		(米) 6月建設支出 [前月比]	-0.2%	-0.5%
	23:15	○	(米) バーナンキFRB議長、講演	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com